「ネパール・ジャパン・フェスティバル 2026」開会式
藤井外務大臣政務官挨拶

カダク・ラジ・ポーデル文化・観光・民間航空大臣、スニタ・ダンゴル・カトマンズ市長代行、ソウラブ・ジョティ実行員会会長、前田大使、御臨席の皆様、ナマスカール。

外務大臣政務官の藤井一博です。昨日、この「ネパール・ジャパン・フェスティバル」に出席するため、東京から参りました。

皆様と共に、日・ネパール外交関係樹立７０周年記念行事であるこのフェスティバルに立ち会うことができ、心から嬉しく思います。

まず始めに、８月２６日に発生した大規模洪水被害に関し、日本政府を代表し、犠牲者及び被害に遭われた方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

日本には現在３３万人のネパール人が住んでおり、ネパール人と日本人はますます身近な隣人となっています。それゆえに洪水のニュースには多くの日本人が深く心を痛めました。

日本はネパールの皆様と共にあります。日本政府は、緊急援助物資供与やＤＮＡ型鑑定のための機材供与、国際緊急援助隊の派遣などの人道支援を行いました。

同じ災害大国である日本の知見や経験を最大限活用し、ネパールの一日も早い復旧・復興のお力となることをお約束いたします。

日本とネパールは、２０世紀初頭から続く留学生交流を始め、長年の人の往来の歴史を土台として友好関係を築いてきました。

７０年前の１９５６年に両国が外交関係を樹立して以来今日まで、両国関係の連帯はこれまでになく強固なものとなっています。

この７０年で、山岳登山交流や農業交流、留学、民間レベルでの技術協力など、様々な分野での交流により、日本とネパールは互いにとって欠かせない友人となり、二国間関係は極めて緊密となりました。

私自身も、日本が協力して建設されたナグドゥンガトンネルや修復中のダルバール広場などを視察し、日本がカトマンズ市民のよりよい生活や経済活動のために協力してきた現場を見てきました。

本日のフェスティバルや様々な市民交流を通じ、両国の友好関係が一層発展し、次の世代に繋がることを心から願っています。

皆様と共に、私としても、日ネパール関係の次の７０年に向けて取り組んでいきます。

最後に、ネパール国民の皆様の更なる繁栄、日ネパール両国の友好関係の一層の発展を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。ダンニャバード（ネパール語で「ありがとう」）。